



県政に勇氣！南魚沼に元気！

ひぐち
秀敏

元気通信

2018/5 第2号

発行責任者: 柴田恵美子
南魚沼市塩沢771-12ノマルビル
ひぐち秀敏後援会事務所
電話: 025-782-5233



南魚沼市の中心部から約46kmの場所に立地する世界最大規模の柏崎刈羽原発。ここで福島のような事故が起きれば、私たちのふるさとに、大量の放射能が降り注ぐ(2面に関連記事) / 写真提供: 共同通信社

野党統一で女性知事候補と共闘

原発ファーストに逆戻りさせない

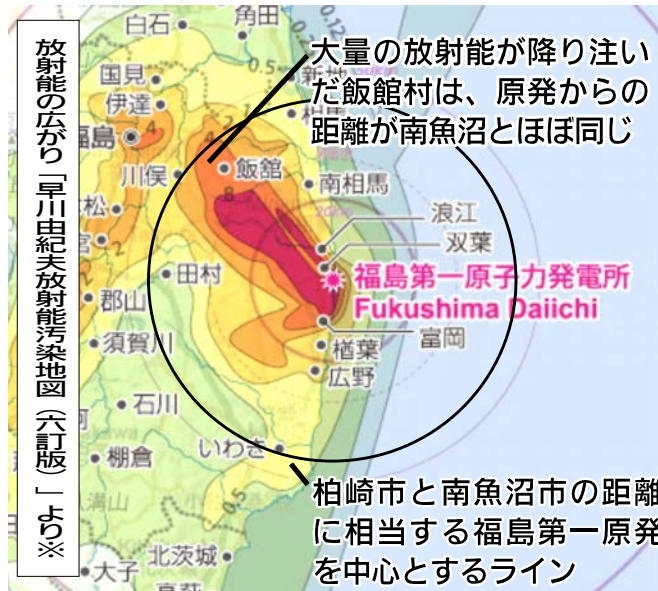
知事選挙の野党統一候補にと白羽の矢が立ったのは、旧知の女性県会議員の方でした。急きよお会いをして、原発推進が第一のかつての県政に逆戻りはさせないと、互いの勝利を誓い合いました。【ひぐち秀敏】

知事選の野党統一候補がどうなるのかと気をもんでいたところ、連休明けに、現職の女性県会議員に白羽の矢が立ったとの報せが。彼女とは旧知の間柄で、魚沼医療再編の課題を議会の度に取り上げてもらっています。驚き半分「この方なら」と腑に落ちる思いが半分でしたが、いても立ってもいられなくなり、自身の支持者拡大活動の合間を縫って、お会いしてきました。

知事与党の一員として議会で活動してきた彼女は「原発をはじめ基本的な前知事の政策を引き継ぐ」としながら「女性の目線、生活者の目線で、心配りとキメの細かさを加えていきたい」と抱負を語られました。

一昨年の知事選挙で新潟県民は、勇氣を持って「原発ノー」の意志を示しました。しかし、安倍政権と自民党、東京電力は、福島の事故の被害者救済も、事故処理も、原因解明も、何一つ満足に行わないまま、原発推進に固執し続けています。彼らが推す知事で、新潟県政を「原発ファースト(第一)」へ逆戻りさせるわけにはいきません。

互いに力を合わせ選挙戦を勝ち抜こうと、握手を交わしました。



※2011年3月に地表に落ちた放射能がそのままの状態で見られる場所の2011年12月時点での放射線量を示した。

元気と勇気もらろう毎日

ひぐち秀敏 奮闘中



ひぐち秀敏は連日、支持者の方々へのご挨拶や住民の皆さんとの対話集会、朝の立ち立ちと、一生懸命活動しています。本人は「出会った方々から、勇気と元気をいただく毎猫道地区で開かれたミニ集会では、膝を交えて住民の話に声に耳を傾けた

「日」と、まっすぐ張り切っています。

ご挨拶に伺ったあるお

宅では、20代の男性から「40人の同級生の半分しか南魚沼に残っていない。若い人の働く場所を」とひぐちの政策にご賛同をいただきました。

地域でのミニ集会では「集落に高齢者しかないとなった。活気を取り戻してほしい」とご要望と



朝の国道ひがしあがり

期待が寄せられました。

朝の立ち立ちでは、手を振ってくださる方が日に日に増え「朝早くから頑張っていたね」などと後でねぎらいの言葉を頂戴することもあります。

地域の皆さんとの触れ合いを大切にしながら、引き続き頑張ります。

ふるさとを奪う原発事故

南魚沼市の中心部は、柏崎刈羽原発から約46kmに位置します。上の図は、福島第一原発による放射能汚染の広がりを示したもので、原発から46kmの地点を太線で描きました。

事故当時の風向きなどにより、高いレベルの汚染に見舞われた飯館村は、その線上にあります。早くに「避難指示」などが出された30キロ圏の外にあり「計画的避難区域」に指定されたとき

原発から南魚沼と同じ距離の村

は、事故から40日も経っていません。そのため、村民の初期被ばく量は、福島県で最も高くなっています。

「日本で最も美しい村」連合に加盟する、農業と酪農の本来に美しい村でした。昨年3月、6年ぶりに避難指示が解除されました。しかし、農業の再開どころか、買い物や郵便投函さ

避難解除から1年 帰村率14%

え地元でできず、自力で除雪しなければ家族の介助ヘルパーも村外から来られない状況でした。

住民の帰村は進まず、今年5月1日現在、避難生活を続ける住民は5014人。帰村者はわずか794人で、帰村率は14%弱でしかありません。

原発事故はふるさとを奪いま

す。柏崎刈羽で同様の事故があれば、南魚沼の暮らしも、仕事も、子ども達の未来も、取り返しがつかないことになります。

あなたもサポーターに

ひぐち秀敏を応援する後援会に、あなたも是非ご加入ください。



ご家族、お友達をご紹介ください

ひぐち秀敏への支援の輪を広げるため、ご家族、ご親戚、ご友人などのご紹介をお願いします。後援会から各種ご案内をお送りします

連絡先:ひぐち秀敏後援会事務所 電話:025-782-5233